

まちの話題



音更産食材で フレンチに挑戦！

ふれあい交流館でおとふけ食のフォーラムが開かれ、親子14組が参加しました。講師はフードディレクターの貫田桂一さん。メニューは十勝ポークの焼きカツレツなど3品に挑戦。貫田シェフはフランス語やユーモアを交えながら食材の特徴や切り方など指導してくれました。参加した鈴木風花さん(音更小5年)は、「バランスよく盛りつけるところが難しかった。弟に作ってあげたいです」と笑顔で話してくれました。



社会奉仕のために

商工会女性部では、リングプルや古切手の回収と、高齢者のおむつの敷布に再利用するウエス(古着など)の寄附に20年以上取り組んでいます。リングプルは福祉団体への車いす寄附資金に充てられ、タオルなどは社会福祉協議会を通じて高齢者施設に寄附されます。川島部長は「人の役に立つのが見えるため、やりがいを感じます」と話していました。なお、女性部では会員を募集しています。(商工会 ☎42-2246岡本さん)

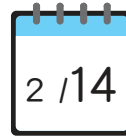




健康を大切にしながら町民の皆さんとのまちづくり



音更中央連合町内会まちづくり懇談会がプロSPA6で行われ、30人が参加。種川会長から「貴重な機会としたい」、町長は「地域の皆さんとしっかり向き合いながらお話しを伺いたい」とそれぞれあいさつがありました。この日は、同連合町内会からの要望事項に対し、まちの考え方を述べる形式で行われました。



ゲートキーパーとして大切なことを学びました



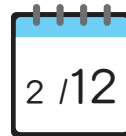
ゲートキーパー研修会が保健センターで行われ、町内の介護施設関係者や教員など27人が参加しました。講師は札幌医大から2人の先生を招き、自殺に傾く人への理解やメンタルヘルス不調者のコミュニケーションの取り方など、DVDを視聴して学びました。実際に2人1組となって、悩んでいる人への接し方や“傾聴”することの大切さに理解を深めました。



地域学ぶ防災講座



十勝川温泉町内会が地域の特性を踏まえた防災知識を学びました。講師の役場防災係は「一人ひとりが防災意識をしっかり持ち、減災を進める上で最も重要なことは、隣保協同の精神です」と話し、参加者は真剣に聞き入りました。「温泉地区の土地が特に低いことが分かった」などの声が上がっていました。



餃子の具材や食べ方は自由です



東京餃子通信編集長の塚田亮一さんを講師に招き、帯広大谷短大で「餃子って何だろう？」のセミナーが開かれました。塚田さんは「作っている人が餃子だと思ったらそれは餃子です」とユーモアを交えながらの講演。世界の珍しい餃子の紹介や、特徴ある国内の餃子の説明に、来場者は耳を傾けていました。